

漁業経済学会 短 信

【第42回大会シンポジウム】

－「水産物市場の変貌と産地条件」について－

コーディネーター 中居 裕（下関市大）

1995年度漁業経済学会（第42回大会）のシンポジウム・テーマは「水産物市場の変貌と産地条件」と決定された。本学会の大会シンポジウムにおいて水産物市場の問題がテーマとして取り上げられたのは初めてのこと

目 次

第42回シンポジウム－「水産物市場 の変貌と産地条件」－ 中居裕……	1
「無沙汰の陳謝」 浦城晋……	3
在京理事会報告……………	4
事務局からのお知らせ……………	5
編集委員会からのお知らせ……………	6

であり、またかかる水産物市場問題が今日、重大な変化の時期に当たっているということからも時宜を得たものと評価できる。さらに当該研究領域は本学会において近年、研究・調査等の蓄積が最も進められてきた分野のひとつでもあり、そうした意味からもそれがシンポジウム・テーマとして選定されたことの意義は大きい。なお、水産物市場、就中「市場」の定義をめぐる種々の議論があるものと思われるが、ここでは水産物商品の（需給ないしは取引の）総体といった意味で使用していることを予めお断りしておきたい。

さて、水産物市場は、1980年代まで生鮮市

場と加工品市場を両輪としながら堅調な成長過程を経てきたが、しかし最近ではその成長を主導してきた生鮮市場における倦怠感を反映して頭打ち傾向にある。生鮮市場についてはその主力となる生食商材市場の成熟化が急速に進展していることや惣菜商材市場が青物類の鮮魚供給の減退等に伴い縮減傾向にあることが指摘され、さらには生食商材市場の成熟化に対応して市場展開が強められてきた活魚商材市場もバブル崩壊や長期不況のもとで失速状況に陥っている、など全般に停滞感を募らせている。しかし、他方の加工品市場は、惣菜加工品等の伸びに支えられて成長を持続させており、形勢としても水産物市場において加工品市場のウェイトが増しつつある。

さらにそうした市場の動向と相応してその成立要件も大きく変化してきている。ここで供給、流通、需要及び価格の最近の動きを整理すると次の通りである。

第1の供給条件については、1) 輸入圧力等による慢性的過剰供給性、2) 遠洋・沖合漁業の崩壊と資源後退に伴う国内生産の総体的な供給力減退、3) 水産物輸入の増大とその国内供給に占めるシェアの上昇、国内産との競合、優位性及び代替性—特に加工原料の輸入依存、4) 供給における流通加工化・製品化の促進…生食商材のフィレー化、惣菜商材や塩蔵・塩干品等の惣菜加工品化、など。

第2の流通要件については、1) 産地流通…斜陽業種・魚類と有機的に関連してきた資

源立地型産地の基盤崩壊と機能の縮小・陳腐化、加工業に依拠した産地再構築→原料の輸入依存、水産加工品の生産増大、輸入港の産地化、2) 卸売流通…消費地卸売市場（・体系）の水産物卸売流通における主導性及び機能的有効性の後退、流通の川上・川下サイドとの有機的結合の弛緩・流通変化との齟齬、市場外流通・チャネルの伸張と影響力の増大、3) 小売流通…水産物小売シェアにおける鮮魚小売業の大幅低下と量販店の主流化、デパートにおける鮮魚販売の伸張と鮮魚専門小売店チェーンの展開、4) 外食産業…すし店など小・零細料飲店の減少、活魚料理店などの新規業態店の展開、和食系飲食店及びテーク・アウト店のチェーン展開、など。

第3の需要要件については、1) 量販店における刺身製品や加工品・惣菜品の新規開発・開拓と販売促進、加工品及び惣菜・デリカ販売部門の拡充→加工品の流通・消費拡大の条件、量販店主導の製品開発、産地・加工業の育成、2) 鮮魚小売店の店舗減少と販売力低下による鮮魚需要の後退、3) コンビニ・弁当産業による水産物需要の創出と流通規定性の強化…焼き海苔、塩サケ、珍味類、おでん種類などの大型需要・販路、4) デパートによる高級商材の小売需要の創出、5) 外食分野における新規業態店やチェーン展開による活魚・生食商材の需要開拓・拡大、6) 贈答品市場やみやげ物市場によるギフト需要の創出→特に高級製品や地域特産品等の重要な

マーケット、7) 消費性向・消費者の購買行動による規定性の強化…安全性、グルメ的・嗜好的消費の増大、消費機会の多様化・増加、など。

第4の価格要件については、1) 水産物小売価格の引き下げ←円高や輸入増大による効果、国際価格との調整、量販店等における価格破壊・引き下げの進行←値引き・特価販売の常態化、2) 中・高級商材における価格低迷・下落傾向…料飲店需要、贈答品需要の減退←長期不況に伴う企業交際費の縮減・家計支出の萎縮、3) 産地価格及び製品価格の低迷・下落…1) 及び2) の影響、産地・生産者へのしわ寄せ、4) 水産物価格体系の下方修正の進行、など。

これまで指摘してきた動向は、現況の水産物市場がかなり複雑な様相を呈したものであることや今日におけるその変化がかなり幅

した要因によって引き起こされていることを物語っている。

このような水産物市場の諸相を解明していくことがシンポジュームの課題であるが、この課題に接近するために主力商材であるマグロ、サケ、ブリ、サバを選定し、1980年代以降今日までのそれら商材別の需要・流通・供給(生産)・価格等を整理・考察することで、現代の水産物市場の変化の諸相を明らかにするとともに、それが漁業生産・産地に如何なるインパクトを促しているのかについても検討していく。

最後にシンポジュームの担当者は、中居(コーディネーター)、廣吉(マグロ)、長谷川健二(ブリ)、多屋(サバ)、佐野(サケ)の諸氏である。

【会員動向】

「無沙汰の陳謝」

浦城 晋一(三重大学名誉教授)

この数か年、うちにこもってばかりいました。ために秋谷さんをはじめ、一体何をしているのか、と幾多の会員諸氏から温かい御叱正・激励・御心配を煩わしました。申し訳ありません。3～4年前から、ぼけ老人の介護(母)、突発性難聴(息子)、学習意欲のな

い学生(留学生)によって、落ち込んでいたのは事実ですが、定年退官を機に元気を回復しました。

しかし全く無為に過ごしていたわけではありません。故東畑精一先生の書物や資料が三重県に寄贈され、農業試験場の構内に記念館

がおかれたことを受けて、その整理をやりました。膨大な官庁文書などの資料の分類整理の過程で、2つの「これは」と思う資料を見出しました。その1はシュムペーターの「資本主義・社会主義・民主主義」の手書きまたはタイプの草稿・書き潰し・ノート的一切であり、その2はロッキング・バックの「中国の土地利用—統計編」です。前者については、読める字に直し、刊行本の流れに沿って整える、という作業をやりました。後者については、これに多変量解析を施し、当時（1930年前後）の中国人の実態調査とあわせて、大戦前中国の農家経済を吟味する、という作業をやりました。

この2つの仕事は予想以上の難事で、まだ一応の完了に至っていません。しかし峠はこ

えたと思っています。いつ当方が死ぬかわからない、という切迫感に追われていることは事実ですが。ほか定年に当たって三重県から与えられた「ガット合意の三重県農林漁業に与える影響調査」をやっています。

以上言い訳がましい私事を書きましたが、明年から学会にもで、皆さんの研究を聞き討議に列したいと思っています。激変していく経済のなかで「社会主義はどうなっていくのか」、新しい社会主義ヴィジョンはどういうカタチで出てくるのか、その場合農漁業のあり方は？が心の底にあります。また資料があれば1930年頃の中国の漁村・漁業事情をやってみたいと思っています。

【在京理事会からの報告】

■94.9.16日に臨時在京理事会、12.10日に第2回在京理事会が開催された。概要は以下のとおりです。

（1）日本農学関係

1995年日本農学賞の推薦著書について候補の有無等を協議したが、該当者なしで見送ることとした。

（2）第42回シンポジウムについて

シンポジウムテーマを「水産物市場の変貌と産地条件」とし、コーディネーター及び報告者の第1回打ち合わせ会議（11月26日）の概要が事務局より報告され、種々意見交換を行った。次期シンポ関係者及び報告テーマについては以下のとおり。

コーディネーター；中居 裕氏（下関市大）
マグロ；廣吉 勝治氏（東水大）

ハマチ；長谷川健二氏（三重大）
サバ；多屋 勝雄氏（中央水研）
サケ；佐野 雅昭氏（東水大）

16期委員（1994.10.16～97.10.15）として小
野征一郎氏（東水大）が再選出された。

（4）今年も「年末カンパ」を実施し、会員
に協力をお願いしたい。

（3）水産研連委員の選出について

今年度（平成6年）から3ヶ年の期間、第

【事務局からのお知らせ】

■年末カンパのお願い

今年もカンパを実施します。出費多端の折
り、恐縮ですがよろしくお願いします。同封
の振り替え用紙をご使用下さい。（振り替え
口座 東京8-71596 漁業経済学会）

〒236 横浜市金沢区福浦2-12-4

（TEL:045-788-7615）

（JR横浜駅→JR新杉田駅→シーサイドライン

経由→「市大医学部前」下車 約50分）

日時：

1994年5月25日（木）18:00～ 全国理事会

5月26日（金）9:00～12:00 一般報告

13:00～14:00 総会

14:00～17:00 一般報告

18:00～ 懇親会

5月27日（土）9:30～17:00 シンポ

■第42回大会について

次年度大会は先般東京勝どきから横浜へ引
越しし、装い新たな中央水産研究所におい
て開催されます。交通手段や宿泊施設の案内
等につきましては、中央水産研究所の学会会
員の協力を得ながら、できる限り詳細なもの
を準備する予定ですが、日時、場所等につい
ては次のように決まっておりますので、早め
にご連絡申し上げます。（開催曜日は土・日
曜ではなく金・土になっています。ご注意頂
くとともに、出張依頼文書が必要な方は総務
担当濱田まで申しつけ下さい。

場所：中央水産研究所

■その他

東水大電話が各研究室、直通方式に変わり、
それに伴い理事及び事務局の電話番号が変更
になりましたので、ご連絡します。なお、詳
しくは同封いたしました最新の学会員名簿を
ご参照下さい。

03-5463-;

濱田 (0572)、宮澤 (0574)、FAX (0493)

廣吉 (0560)、馬場 (0564)、佐野 (0566)

大海原 (0570)、小野 (0571)、

【編集委員会からのお知らせ】

■学会誌の編集は現在年4回の定期刊行を原則として進められています。そしてこれらは当然ながら会員諸氏からの投稿によって支えられています。しかし現実には会員からの投稿、しかも「論文」を目指した質の高い研究

成果の論稿が依然としてかなり少ない状況です。積極的な投稿をよろしく御願います次第です。

漁業経済学会短信 No. 74

1994.12

事務局

〒108 東京都港区港南4-5-7

東京水産大学内

電話 03(5463)0572 (濱田)